

## 第 1 回新総合計画策定会議（12/22）の意見対応状況

意見内容		対応状況
1 県の推進姿勢について		
1	「協働」・「改革」・「創造」で良いのではないか。	御意見のとおり、「協働」・「改革」・「創造」の3つの視点で新総合計画を推進することとし、その上で、計画を着実に実現するためのこうした推進姿勢が県民に分かりやすく伝わるよう、「～愛顔づくりへの“挑戦”～」との追記をしました。
2	県と県、民と民の協働の観点も盛り込めないか。	「県と県」の協働に関しては、第1章（基本的事項）に追記しました。 また、「民と民」の協働については、第5章（分野別計画）で、9の政策ごとに「県民等に期待すること」を記載しており、計画の進捗状況を見極めながら民と民の協働を働き掛けたいと考えています。
2 基本理念（副題）		
3	○「より良い愛媛」という表現が抽象的過ぎて理解できない。 ○もう少し若者が主役だというメッセージが必要ではないか。 ○温かみのある分かりやすいメッセージ性があるものにすべき。 ○「引き継ぐ」や「次世代」という言葉ではなく、今の若い人たちに刺さるようにすべき。	これまで、基本理念の副題として整理・検討していましたが、「基本理念」である「愛のくに 愛顔あふれる愛媛県」は、県政推進の理念として既に浸透が図られているため、基本理念の副題ではなく、県民共有の指針である新総合計画のメッセージとして正しく伝わるよう、計画のキャッチコピーとして「未来につなぐ えひめチャレンジプラン(仮)」と整理しました。
3 目指すべき方向性		
4	「持続可能」という言葉が現状維持のイメージもあるため、もう少し前向きな表現にならないか。	ここでの「持続可能」は、SDGsの「誰一人取り残さない」との理念のとおり、文字どおりの現状維持ではなく、どのような社会変動があっても、現状を基本としつつ、より良い社会や環境を目指して前向きに取り組むという想いを表しています。（該当部分は、第3章（1）基本理念の要約）
4 現状認識		
5	カーボンニュートラルやGXについて、「部局横断的な視点」で取り込めないか。	御意見のとおり、GXの推進は大変重要な視点ですが、県では、今国会に提出されているGX関連法案など、国のエネルギー政策の具体的方向性を見極めた上で地域社会や産業の変革に取り組むべきと考えており、まずはGXの基軸の一つであるカーボンニュートラルの実現に向け、産業界への支援などを進めているところです。 このため、部局横断的な視点としては、GXの実現にも不可欠なデジタル技術の活用や、GXの浸透にもつながるSDGsの視点を取り上げています。

6	デジタルは社会インフラ・基盤と捉えてほしい。	御意見を踏まえ、第2章（時代の潮流）の中に趣旨を追記しました。
7	健康についても、部局横断的な視点に入れてほしい。	「健康」については、第2章（時代の潮流）（2）に健康寿命の延伸を目指す旨を記載するとともに、横断的な「視点」に止まらず、「人」の分野の具体的な施策の一つとして取り組んでいくこととしています。
8	○労働力人口の流出を食い止めるため、高校卒業までに県内企業を知ることに加え、愛媛の産業の果たしている役割を知ってほしい。 ○若者に県内企業に興味を持ってもらうため、若い人も活躍できる仕組みが必要	本県の人口減少の主な要因である若年者の県外転出を抑制するためにも、小・中・高校生に企業を知ってもらう取組みは重要であり、今後、昨年10月に県が発表した「えひめ人口減少対策重点戦略」の下、シビックプライドの醸成を図るなど、取組みを強化することとしています。
9	人口減少対策のため、都市圏と地方圏が共生でき、ウェルビーイング実現のため愛媛に暮らすことが良いと実証できれば良い。	第2章（時代の潮流）の中に、趣旨を追記しました。
10	若者の意見が通りやすい仕組みづくり、多様性を尊重して地域づくりに参画できるような姿勢が必要	分野別計画の施策の一つとして、「若者」を取り上げており、施策を推進する中でこれからの愛媛を担う若者が活躍できる社会を目指して取り組んでいきます。
11	災害時に外部からの支援や広域連携など、受援力を高める必要	第2章（時代の潮流）の中に、趣旨を追記しました。
5 アンケート調査結果について		
12	大学生に計画案の意見をもらうプロセスを取れないか。	パブコメの実施時に、大学生から意見を聴取できるようにしたいと考えており、その際、各大学の委員からも働き掛けをお願いしたい。
6 その他		
13	「トップダウン」という言葉の使い方が気になる。	添付した資料1-2のとおり、「ゴール（目標）を意識した政策・施策体系」としました。
14	「創造」する「人」づくりという観点も欲しい。	第3章（2）中に、趣旨を追記しました。
15	外国人との「協働」も入れてほしい。	分野別計画やエリア構想では、外国人のことについても記載しているほか、第2章（時代の潮流）においてもダイバーシティの尊重を掲げ、外国人との協働や、活躍についても触れています。